

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600170	事業の開始年月日	平成11年9月1日
		指定年月日	平成12年1月4日
法人名	社会福祉法人同愛会		
事業所名	グループホームRAKU		
所在地	(〒240 - 0051) 神奈川県横浜市保土ヶ谷区上菅田町1352-24		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護		登録定員 名 通い定員 名 宿泊定員 名
	☒ 認知症対応型共同生活介護		定員 計 9 名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果 市町村受理日	2013//

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた季節を感じる場所で、一人一人が自由に思うままに生活 暮らしている場所であるよう努力しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年11月27日	評価機関 評価決定日	平成25年12月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇理念「その人らしく、より豊かにゆっくりと・・・」の実践 ・居室担当制を活かして、職員は個々の利用と家族の要望に沿って、起床・食事なども決まった時間でなく、個々のペースに合わせた生活を支援している。 ・職員の異動が少なく、利用者、家族との馴染みの関係ができており、職員は家族と思いを同じくして支援に取り組んでいる。 ◇地域との緊密な連携 ・利用者は上菅田・竹山連合自治会の行事である「どんと焼き」や「運動会」、「夏祭り」に職員と一緒に参加したり、地域のボランティアによる書道やコーラス、音楽会を楽しんでいる。 【事業所が工夫している点】 ◇「気づきシート」を活かした個々の利用者に沿った支援 ・利用者の一人ひとりの気づきシートを作成しており、食事から行動、排泄、環境設定などを記入して思いや意向を把握し、利用者の行動の要因と対応の仕方を検討して、個々の利用者に沿った支援をしている。 ◇利用者一人ひとりに対応した食事 ・栄養士が作成した献立を厨房担当者が調理し、検食簿に利用者一人ひとりの好みを記入して、個々の利用者の嗜好にあった食事を提供している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームRAKU
ユニット名	ー

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく…という理念に基づき個別対応を心掛けている。	・「その人らしく、より豊かにゆつくりと暮らしながら生活の再編を目指す」の理念を玄関に掲示し、全職員の目で個々の利用者の気持ちを汲み取り、利用者のベースを大切にその人らしく過ごせるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとの地域行事のご案内をいただき、できる限り入居者さんと一緒に参加している。	・連合自治会に加入しており、地域の盆踊りや運動会、草むしりなどの行事に利用者も職員と一緒に参加し、近隣の方から育てた野菜をもらったりしている。 ・ボランティアによる書道や詩吟などをを利用者が楽しむ機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方のご協力をいただきキャラバンメイト講習会を開催職員も参加して開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度行っている。	・併設の小規模多機能型施設と合同で2自治会長、民生委員、地域代表、利用者家族、地域包括支援センターの職員が参加して2か月ごとに開催している。 ・地域代表から避難訓練での支援内容の質問があり、救出者の外での見守りをお願いした。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	キャラバンメイト、区 連絡会等で連携をとっている。	・区内のグループホーム連絡会、認知症理解の会を高齢者障害福祉課と連携して行った。又地域の人にアルツハイマーについて説明している。 ・法人本部が地域ケアプラザを運営しており、地域包括支援センターとも常に連携を取っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間窓ガラスを割られた経緯から、警察の指導もあり玄関は施錠している。身体拘束は、基本していないが職員の意識不足も否めない。	・定期的に身体拘束・虐待についての研修や他施設での事例検討を行っている。 ・職員は、介護者としての現状を振り返り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	25年度9月に研修を受講しケース会議内にて講習会を開催して情報を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援・成年後見制度など学ぶ場を設け、より浸透できるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者・介護支援専門員・フロアーリーダーと面談及び説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・などでご家族と話す場を設けるよう努力している。年2回の家族会やケアプラン説明時や、体調変化時なども含めて。	・年2回の家族会や利用者との面会時、また、ケアプランの説明時に、家族から意見や要望を聞いている。 ・職員は家族の話を聞いて、個々の家族の要望に沿った支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今回の自己評価を行い、各 職員の意見をまとめRAKU会議にかけ、より、各自の思いを確認出来るよう面談を行う予定、今後に生かせるよう努めたい。	・毎月のスタッフ会議や日々の申し送りの折、職員の意見や提案を聞いて運営に反映している。 ・今年度、新たに職員から提案のあった「30分休憩」の実現に向けて取り組んでいる。	職員のモチベーションを上げ運営に関する意見や提案を積極化するためにも、職員からの提案の「30分休憩」が実現することが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年度の課題だと思う。各職員がモチベーションを上げ励めるように努めたい。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や外部研修で新しい知識を学び自己を振り返り学び、生かして行けるよう機会はもうけている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の中での日々の変化を見逃さないよう向き合い、努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努力している。家族会の工夫。来訪時の関係づくり…		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	年々変化している状況（本人、家族）に向き合えるようつとめている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人のペースに合わせた暮らしが保たれるようつとめている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の不安、ご本人の楽しみを共有する為に、一緒に外出をしたりしている。全ご家族に広げたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相手があって成り立つ部分もあるが…親戚、友人が訪ねてくださっている。	・家族に馴染みの人や場所との関係継続の大切さを説明して、親戚や友人の来訪の際には、関係が途切れないように支援している。 ・利用者の馴染みのすし屋に、スタッフと一緒に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。お茶の時間や洗濯時間決めているわけではないが、皆さん居間で過ごす時間が一番多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族が庭の木の手入れや、古布を、新茶を持って訪ねてくださる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努力しているが、とても難しいこともある。	・利用者一人ひとりの気づきシートに食事、行動、排泄、環境設定などを記入し、思いや意向を把握して検討している。 ・敬老会などの行事には、アンケートをとり、好みの秋刀魚、赤飯、煮物などを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報をもとに…今まで使用していた家具、仏壇にいたるまで持ち込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩けるときは歩く、眠りたいときは休む、腹が減ったら食べる。状況に併せて向き合い支援できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況の変化に対し早急な対応や話し合いができています。	・ケアマネジャー、家族、看護師、居室担当者など全職員でケース会議を行い、利用者の状況に応じた介護計画を作成している。 ・介護計画は、家族の意向を入れ6か月毎に、又、状況に変化が生じた場合はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録のチェック・他のスタッフからの情報を得、常に共有しながら見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	変化に伴い…なかなか維持出来ていないが…努力していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度の定期的に訪問診療をうけている。必要に応じて専門科の受診をしている。	・かかりつけ医での受診は、通院を家族にお願いしているが、職員も家族と一緒にいくこともある。 ・内科協力医の訪問診療を2週に1回受け、デンタルクリニックが月1回訪問して口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されるようになり、医療介護の連携が濃くなり職員の安心にもつながった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携を取り合い、ご本人にとって安心な暮らしを取り戻せるようつとめている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化に応じて、その都度ご家族と話し合い医療相談員、主治医に相談し連携を取り合っている。	・重度化した場合の対応、看取りに関する指針があり、重要事項説明書に明記して、入居時に家族に説明し意向を確認している。 ・ケース会議でターミナルケアの研修を行い、家族の希望や本人の状況に合わせて支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えていない。1年に2回のペースで行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練は行っている。夜間想定訓練には、地域住民の方にも参加して頂いている。	・年2回、日中と夜間対応の防災訓練を行っている。訓練には民生委員、近隣の方、消防署が参加を得ている。 ・併設の小規模多機能型施設の外の倉庫と冷凍庫に、食料や水等を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めている。勤務終了後 自己の振り返りができるような工夫を検討中である。	・職員が慣れ合いになり、利用者に不快な口をきいたり、申し送り時に何気なく利用者の名前を出すことなど、ケース会議で振り返り職員に徹底している。 ・ケース会議の議事録には利用者の部屋番号のみを記している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけ、問いかけ、の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努めているが…こちらの都合も取り入れてとなってしまうときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食を楽しめるような環境の工夫、落ちつけること、温かい事、冷たいものは冷たく出しているが…下膳して頂いてるぐらいである。	・献立は栄養士が作成し、厨房スタッフが調理をしている。肉や魚は地域の商店街から調達し、野菜は自前の畑から収穫して、常に旬の新鮮な食材を使用している。 ・検食簿に利用者の反応を記入して、次の献立の参考にしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態の工夫、栄養士が配置されており季節の食事の工夫なども熱心に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	今までのデーターをもとに、タイミング、時間毎の促し、誘導をおこなっている。	・日中は利用者の様子を見て、都度トイレでの排泄を支援している。 ・夜勤者への申し送り事項とチェック表には夜間の下着の交換状況などを記録して、自立に向けた支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄状況を把握して体を動かし、食べ物、飲み物、おなかマッサージ、下剤などの助けもあり、安心して気を抜ける環境での排泄をめざし努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっている。その日の状況に合わせて対応している。入浴日でなくても「入りたい」と言われたら入浴できるよう取り組めたらと思う。	・入浴は10：00～17：00までとし、最低週2回としている。リフトを導入し全介助の利用者でもゆっくり湯につかれるようになった。 ・入浴剤や皮膚に合ったボディソープを利用し、くつろいで入浴できる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々違うため、その時に応じて対応しています。日向ぼっこしながら…ソファーを持ち込んで寛いで貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている量、時間がきちんと服薬できている。経過なども記録等でおっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月の行事などで個々の趣向を取り入れる努力はしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	協力いただけるとご家族とは、墓参りや馴染みのすし屋に出かけたり企画している。誕生日月の遠出などにも出かけている。	・天候や利用者の体調に合わせて、事業所の周り、又、近くにある事業所の畑に出かけて、外気浴や夕日見物で外の空気に触れるなどの工夫をしている。 ・季節ごとに、つつじや紅葉の見物に車で出かけている。	・利用者が家族と外出する機会が減る中、職員が利用者・家族と一緒に外出する計画の実現が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	機会を作り買い物に出かけたりすることが、特別ではなくなるように努力する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	掛けたいと希望があれば対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	老朽化が見受けられるところもあるが…気持ちよく過ごせるよう出来る範囲で対応している。	・共用空間の温湿度が管理されているが、利用者の状況によっては、ひざ掛けを使用したり、足浴をしている。加湿器、濡れタオルで乾燥対策も行っている。 ・リビングには、手作りの作品や行事の写真で生活感を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日向ぼっこをして休めるようにソファーを移動したり、人の気配が薄れるようにカーテンをつけたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	している。	・居室には利用者馴染みの家具を持ち込み、手作りのカレンダー等を貼って自室らしさを出している。 ・職員の居室担当制を採っており、職員が衣類の整理、衣替え等を行い、可能な利用者とは居室の掃除を一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札・案内板・写真・手拭きタオル		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム R A K U

作 成 日 平成25年12月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	1日1時間の休憩が取り きれていない。 ・利用者さんの重度化 ・業務担当の能率の不 具合が問題	・利用者さんの状況に 応じての業務の切り捨 て、スタッフ間のフォ ロー（チームワーク）休 憩時間帯を決める。	・12月、1月、ケース会議 内での取り決めをを 行 う事。 ・休憩時間帯をしっかり 決める	3 か月～ 6 か月
2	18	・ホーム外での利用者 家族との外出が減っ ている。職員、家族 との信頼関係作り	・共に出かける事での 安心感、利用者さんの 楽しみにつながるよう 支援する。、	・誕生日月の外出やお墓 参り、ご本人の趣向を活 かしたプランを立て現在 も行っているが、より1人 でも多く、ご家族に理解 頂けるよう、取り組みた い。	1 年～2年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。